

## 令和3年度 第2回がまごおり協働まちづくり会議議事要旨

日 時 令和3年9月22日（水）

午前10時～

Web 会議システム（Zoom）にて実施

### 1 開会

事務局より、配布資料の確認  
会長より、第1回議事録の承認

### 2 議題

#### (1) 令和3年度助成金事業について

事務局より、はじめの一步部門随時募集の状況について報告

○1件の応募があり、審査の結果「中央ファーム」が採択事業となった。

- ・学校で畑をやるために、校長先生、教頭先生と団体、既に同様の取組みをしている団体とで話をし、現地視察などを行って、今回の申請にこぎつけたので、良かったと思っている。
- ・名古屋の専門学校で秋に地域での体験活動を行うため、秋に行う活動があれば蒲郡の学生を紹介したい。

#### (2) 令和4年度助成金事業について

事務局より、助成金事業の検討について説明（意見交換）

- ・助成金事業は、当初10万円以上の助成金からスタートしたが、活動のハードルが高いことから、はじめの一步部門を創設した経緯がある。
- ・継続している団体の多くは、はじめの一步部門へのエントリーからスタートしているが、全てがステップアップ部門にエントリーしているわけではない。
- ・両部門の違いが見えにくくなっているように感じる。
- ・はじめの一步は比較的最小さんが使いやすいものへと変更していく必要があるのではないかと感じている。
- ・チャレンジする活動が増え、結果的にクラウドファンディングの利用やグループでの活動などにつながっていくものになりたい。
- ・ボランティアなどの活動を行っていない方が利用できるような工夫も必要ではないか。
- ・備品購入費が対象外経費になっている点については、以前、アダプトプログラムの活動において議論になったことがある。
- ・備品購入について、各団体が所有することを前提とするのではなく、シェアできる仕組みを考えることも必要ではないか。
- ・活動の支援について、お金の面だけでなく、活動におけるサポートや、他の団体や機関、人との関わり場も必要だと感じている。
- ・お互いが高め合える場づくり、環境づくりも必要ではないか。
- ・1回限りの活動にも利用できるものがあるとよい。
- ・地域の話をお聴きすること、地域課題に気づいている方の声を聴くことから始めるべきではないか。そういった中で、助成金制度の紹介をするなど、

口コミによる広がりが減ってきているのではないかと思う。

- ・継続性や持続性をはじめの一步の活動に求めることは、やってみようという後押しとは少し違うので、苦しいところがある。
  - ・活動をサポートしてくれるオブザーバーのような方がいるとよい。
  - ・活動する市民団体が増えること、また活動をはじめたら続けていけることが大事であるため、資金の運用面での視点、また、情報発信面には力を入れるべきであると思う。
  - ・困難な課題や未経験の課題に取り組んでいるかといった視点は不要ではないか。
  - ・同じような活動について、またその活動がどう広がっているのかなどを知れる場や手段がほしい。
  - ・備品は、ステップアップくらいに活動であれば認めてもよいと思うが、はじめはシェアできるとよい。
  - ・活動においては、同じ志を持った人をどう見つけられるかが重要で、いかに広く発信し、また、いかに情報をつかみ取ることができるかがポイントとなる。
  - ・備品について、各団体で貸し借りができたり、貸出できる備品がある程度整備されていると活動をはじめやすいのではないかと思う。
  - ・応募する際のサポートにおいて、関係する団体などと話をできる場があるとよいと思う。
  - ・助成金の制度が十分に市民に伝わっていないのではないか。地域へは総代連合会を利用して周知、啓発することもいいのではないかと思う。
  - ・わかりやすい制度の周知や、手続きの簡易さも必要ではないか。
  - ・助成金を利用した団体との交流があるとよい。活動の現状や今後の方向性などについて情報交換をすることで、新たなつながりや、新たな事業展開を図ることができる。
  - ・食糧費については、用途に応じて対象となるようにしてほしい。
- 支援内容について、申請前、実施中、実施後において、資金的な支援以外に必要な支援についても検討が必要。
- 制度周知や団体間のつながりについて、助成事業の取組状況を WEB 等で発信していくような情報共有できる仕組みを考えてもよい。
- 地域づくりにおいては、課題をいかにという視点から考えることが多いが、地域資源を活かし活動を行う中で結果的に課題解決につながったという方向性もよいと思っている。

### (3) 令和3年度協働モデル事業について

事務局より、若者支援協働モデル事業及び人材育成協働モデル事業の実施状況について報告

#### ○若者支援協働モデル事業映像制作成果発表会について

- ・映像のテーマに少し偏りを感じた。蒲郡には海だけでなく、山や農業もあり、次回はそういった分野にも目を向けてほしい。
  - ・プロジェクトの目的、映像制作に求めるものについて、事業として目指すところと学生の認識が少し違っているのかなと感じた。
- 企業と学生が対話することで企業としても学生の考えなどを知る機会

になったことは良かったのではないか。

- ・目的を一つに絞るなど、内容等再検討しブラッシュアップしていけるとよいのではないか。
- ・企業ばかりでなく、地域や市民団体との取組も検討できるとよい。
- ・次年度に向けては、目的や目標、クオリティの点について再考を。

○人材育成協働モデル事業 SDGs 第1回講座について

- ・フォアキャストとバックキャストの視点、目指す将来を描いたうえで現在やるべきことを考えるバックキャストの考え方は勉強になった。
- ・第1回としてはおもしろく、入りやすい内容だと感じた。

(4) 令和4年度協働モデル事業について

事務局より、協働モデル事業の検討について説明（意見交換）

- ・過去のモデル事業の検討においては、背景や課題をベースに実施してきた。
- ・様々な分野の課題や取組みに対し、新たな視点からみんなで発見していく、自分ならこう関わるといいう取組みを見つけていくようなこと。
- ・H28年度までは、まちづくり会議から課題や目標を提案し、モデル事業としてきたが、H29年度からは、市の課題に対する取組を行い、H30年度からは、人材育成事業を取り入れている。
- ・検討する主体によって、取組む方向性や内容が変わってくることを感じている。
- ・モデル事業の継続性や、その後についてが見えてこない。もっと次の展開や周知が必要ではないか。
- ・持続性がないかなと思う。実施後の意見や、持続可能な事業であれば、どこかの団体とバトンタッチをしていくなどをすれば、もっと深みのある取組みになるのではないか。
- ・単年で終わるのは残念。蒲郡市の方向性を示したうえで実施するなど、リーダーシップを示してもいいのではないか。
- ・事業実施後の展開が大事だと思う。縦割りではなく、部署横断的に取組みを広げてほしい。
- ・今は、子どもが1人でも過ごせる時代になっている。地域が子どもを育てる観点、また、地域を知ることが将来的に蒲郡に住み続けることにもつながることから、地域の高齢者や有識者と一緒にまちを歩くような事業もいいのではないかと思う。
- ・ハード面を含めたまちづくりの開発の現状について、市民が知る機会があるとよい。
- ・新しいことをチャレンジできるようなテーマ、事業であるとよい。駅周辺の開発は色々な方が興味をもっている事業でもあり、巻き込みながら、また、巻き込まれながらやっていけるとよい。
- ・今回の大学とのモデル事業は、学生が主体で実施した取組である点は意味のあることであった。若者の考えや思いを今後につなげていくことも必要だと感じている。

○若者議会の取組などとのつながりを含め、次年度に向けた検討を。

- (5) 協働まちづくり指針策定ワーキングについて  
事務局より、第1回ワーキングの日程等について説明

### 3 その他

次回開催時期について

第3回は令和3年12月16日(木)午前10時から、第4回は令和4年2月18日(金)午前10時から、対面及びオンラインでの開催を予定